

目

次

■ 提言の要約	1
1 はじめに ～地方分権時代における行政評価の必要性～	2
2 行政評価とは ～そもそもの目的・期待する効果を再確認しよう！～	3
3 活かされない行政評価 ～実態と問題点を解き明かそう！～	4
4 だから機能しない行政評価 ～改めるべき点の把握～	8
5 提言“こうしよう！行政評価 ～分権時代に求められるものとは～”	10



提 言 の 要 約

こうしよう！行政評価 ～分権時代に求められるものとは～

現 状

- 地方自治体の 49.3%が行政評価を導入している。(平成 21 年度総務省調査)
- 成果があまり上がっていない。(何に活かされているのか???)
- 職員の負担になっている。(あれもこれも手一杯だし、似たような調書も…。)
- 住民の関心が低い。(周知方法がまずいのか、気がないのか?)

課 題

- 活用方法が分からない。(評価したことが、次のステップに活用されているのかな?)
- 職員の意識改革が進まない。(やらされ感たっぷり…。これではいいものが…。)
- 公表された評価票が分かりにくい。(住民は見る気がしない…。)

目 標

- 内容ややり方の改善により、やらされ感と負担を軽減し、納得して取り組むことができる“機能する行政評価”を確立しよう！

施 策 案

- 1 評価対象事業の絞り込みをしよう！**
 - (1) 事業の絞り込み ～選択と集中～
 - (2) 行政評価の流れを確立 ～評価スケジュール～
- 2 様式を統一&統合して評価しよう！**
 - ～事務量の軽減&効率化へ向けて～